

令和2年1月20日

国立市教育委員会

教育長 是松 昭一 様

第23期国立市社会教育委員の会

議長 西川 雅明

「生涯学習情報の集約・発信事業」について（意見）

当会は、令和元年7月22日付国教生発第74号をもって諮問のあった「生涯学習振興・推進計画における事業の具体的な展開方策について」を受け、「生涯学習情報の集約・発信事業」の内容について議論してまいりました。

議論の結果を別紙に取りまとめましたので、「生涯学習情報の集約・発信事業」を具現化する際に反映していただきますようお願いいたします。

以上

「生涯学習情報の集約・発信事業」について

現在、各施設、各担当課による広報が活発、効果的に行われていますが、情報がより広く届くように、以下の事を提案します。

＜具体的な方法＞

生涯学習情報の集約: 情報を詳しく知りたい人のために

1. 生涯学習の観点での HP の整理

視点

- 1) 必要な情報が網羅されているように
- 2) わかりやすく、なじみやすく、親しみやすく

• 生涯学習ポータルサイト開設

生涯学習に関する情報を集約したポータルサイトを構築し、部署間の垣根を越え、情報を集約する仕組みと体制を整えていただきたい。ポータルサイトへは、図書館・公民館のバナーと同様に、市ホームページのトップページにバナーを置いていただきたい。内容は、イベントカレンダー、各種講座情報、サークル・団体情報、周辺自治体へのリンクなどとしていただきたい。

生涯学習ページは、直感的に階層構造がわかるよう整理し、ページ名称も工夫していただきたい。

• イベントカレンダーの情報充実と分かりにくさの解消

市ホームページのトップページに配置されたイベントカレンダーは、生涯学習情報を発信する有力なツールであるにもかかわらず利用しにくい。

まず、情報の充実をはかることが必要である。たとえば、各部署が講座情報等を発信する際に、イベントカレンダーにも情報を掲載するよう業務フローを整理するなど充実がはかれるよう工夫を凝らしていただきたい。

また、情報の整理も必要である。イベントカレンダーに付された現在のカテゴリは分かりにくい。カテゴリ区分を細分化し過ぎず、情報が学ぶ側のニーズに応じて一覧できるよう整理していただきたい。

2. サークル・団体情報の内容充実

視点

- 1)情報の所在を周知し、活用を推進する

サークル・団体情報の所在に、より多くの市民が気づくことができるよう周知を促進するとともに、情報掲載を望むサークル・団体が情報を掲載しやすくするよう取り組んでいただきたい。ページのつくりとしては、写真掲載などビジュアルに表現できる方法が現在でもあるものの、ほとんど知られていない。活用を推進していただきたい。

多様な手段での情報発信：様々な人に情報が届くように

1. SNS・メールの活用

視点

- 1)HP の情報にたどり着くための手段
- 2)それぞれの SNS・メールの特徴を活用
- 3)一度登録すると自動的に情報が届く

• HPへの案内手段

Twitter や LINE などの SNS、メールマガジンには、一度登録すると自動的に情報を受信できる仕組みがある。受信情報はリンクをたどることにより詳細情報が掲載されている HP に案内することができるため、学びのきっかけづくりに有効である。まずは、登録の促進に努力していただきたい。

• SNS等の特徴の活用

SNS には様々な機能や特徴があり、それぞれを生かした情報発信をしていただきたい。例えば Facebook であれば事後報告的な使い方に強みがあり、twitter であれば告知やライブでの情報発信に強みがある。(国立市に在住し市外に勤務する「働き世代」への周知方法として期待できる)

繰り返しイベントに参加したい人のために、SNS のフォローを案内すると同時に、次回のお知らせとして情報を発信するなどの施策展開も工夫していただきたい。

SNS で発信された情報は、二次的、三次的に拡散されていくことも特徴

である。フォロワーの行動も意識した情報発信をしていただきたい。

Twitter ではカテゴリ別にアカウントを設けることで、利用者にとって使いやすい情報が発信できる可能性がある。ご検討いただきたい。

なお、SNS は、個人が利用する双方向メディアであることから、一般的に知られているような情報漏洩や炎上などのリスクも伴う。運用にあたっては十分配慮していただきたい。

2. 冊子・パンフレット等による情報発信

視点

- 1) 紙媒体でなければ情報が伝わらない方、紙媒体のほうが情報が伝わりやすい方への発信
- 2) 情報との新たな出会いの促進(新規層の獲得)

・ 手に取りやすい薄手のパンフレット作成

学ぶきっかけとなる公民館などの社会教育施設の活用方法など、学習に役立つ情報をまとめた薄手のパンフレットを作成し、日常生活で人目に触れやすい場所や、他の部局と連携して公共施設等で配布していただきたい。

・ 網羅性を重視した厚手の冊子作成

紙媒体でなければ情報が伝わらない方や紙媒体のほうが情報が伝わりやすい方に向けて、講座の年間予定、サークル団体情報、施設案内など、ポータルサイトに掲載する内容を網羅した厚手の冊子を作成し、他の部局と連携して公共施設等で配布していただきたい。(特に転入者・退職者が市の窓口に手続きにやってきた際に渡したり、民生委員が個別訪問した際に必要な方に渡すなど、積極的な配布も工夫していただきたい)

・ ポスター・電子掲示板等の活用

ポスターや電子掲示板等に掲載した情報は、多くの人の目に触れるため、新規層の掘り起こしに効果があるので活用していただきたい。また、より詳しい情報を案内するために、ポスターやチラシに QR コードを掲載する手法も有効と思われるので検討していただきたい。

学習情報の収集・発信の全体について

- イベントや講演会の名称等の表現の工夫

参加者がイベントや講演会に気楽に参加できるよう、名称やキャッチコピーは、やさしく表現したほうがいい場合がある。また、学習意欲を高める効果をねらって生涯学習であることを前面に出したほうがいい場合もある。

イベントや講演会の名称は、その内容を正しく伝えることを維持しつつ、対象者を想定しながら、わかりやすく、興味を喚起するような表現を工夫していただきたい。

- ユニバーサルデザインへの配慮

生涯学習情報の多言語化や、やさしい日本語の使用や音訳等は、市が独自に工夫し、外国人やしょうがいしゃ、高齢者等と関わる組織との連携をはかりながら、すでに取り組みされているが、市には多くの外国人やしょうがいしゃ、高齢者等が在住していることを考え、一層推進していただきたい。